昭和十年

E-1164

0218

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭和十年二月七日開會

於　名古屋材木商工同業組合

日滿木材協會第一回總會議事錄

E-1164

0219

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

日滿木材協會第一回總會議事錄

昭和十年二月七日午前十時名古屋木材協會第一回總會開催

出席者

來賓之部（順序不同）

農林省山林局	農林技師 矢部立志郎殿
京都帝國大學農學部	林學博士 市河三錄殿
名古屋稅關支署	支署長 松田長治殿
同	監査課長 大和龍城殿
帝室林野局熱田白鳥出張所	所長 松井喜久郎殿
愛知縣名古屋港務所	所長 奥田助七郎殿
愛知縣林務課	課長 高瀬五助殿
〃	地方農林技師 長谷川清三殿
名古屋市役所	助役 神田純一殿
〃	主事補 瀬尾昇平殿
名古屋商工會議所	理事 三浦一殿

滿鐵大阪鮮滿案內所	荒鑄之助殿
鴨綠江採木公司	理事長 八木元八殿
愛知縣林務課	技師 村上勝重殿

滿鮮之部

安東材木商組合	伊藤勘三殿
仝	婦子井正信殿
仝	村上四郎殿
吉林材木商組合	青山勝造殿
奉天材木商組合	秋永彌助殿
仝	伊勢六郎殿
圖們材木組合	中島信太郎殿
仝	石崎治吉殿
仝	金世泳殿
清津材木商組合	石田貞次郎殿
仝	辻兵五郎殿

E-1164

0220

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

雄基材木商組合　中村直三郎殿
仝　名古數之助殿
仝　木城眞清殿

内地組合之部

廣島木材商同業組合　加藤精一郎殿
仝　日垣一三殿
清水港材木商同業組合　中村藤太郎殿
仝　高塚愈一殿
仝　坂上政次郎殿
仝　小志文次郎殿
仝　渡邊錦作殿
仝　西野彌三吉殿
仝　望月貞策殿
仝　增田麟三殿
仝　大賀正一殿
仝　畠山慶吉殿

仝　敦賀材木商組合　堀玉吉五郎殿
神戸材木商同業組合　西村平四郎殿
仝　佐々木泰嗣殿
富山市木材業組合　浦上銀太郎殿
仝　福井清之殿
伏木材木商業組合　桑田茂造殿
仝　種池喜一郎殿
仝　朴木與三一殿
仝　八尾三之助殿
大阪木材協會　矢口計吉殿
仝　中川勝平殿
仝　田平寛殿
仝　妹尾豐殿
仝　清水榮次郎殿
仝　神田俊雄殿
仝　楠正治殿

E-1164
0221
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

全　深澤吉殿
全　神野鑛逸殿
全　北野佐太郎殿
全　岡見宇一殿
全　平田仁藏殿
全　早川喜三郎殿
全　井田幸太郎殿
全　井戸川義賢殿
全　竹林松次郎殿
全　脇部小十郎殿
全　宮地太市殿
全　山岸治朗殿
全　三尾愛治殿
全　日比駒之助殿
全　伊藤千生殿

舞鶴港材木商組合
全　加藤清吉殿

東京材木問屋同業組合
全　江口碩之輔殿
全　松永源右衛門殿

新潟木材業組合聯合會
全　三夢商事株式會社
名古屋支店殿

名古屋材木商工同業組合
全　杉山定吉殿
全　大臺林業株式會社殿
全　靖地梅太郎殿
全　淺井製材株式會社殿
全　大矢仙左衛門殿
全　齊藤國太郎殿
全　名港土地株式會社殿
全　合名會社加周商店殿
全　材揚木材株式會社殿
全　二井常次郎殿
全　片桐金松殿
全　岡田紋次郎殿

E-1164

0222

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

金 金 金 金 金 金 金　金 金 金 金 金 金　金

株式會社
新橋製材所殿
森中繁太郎殿
伊藤竹次郎殿
鹿島祐嗣殿
山岸藤三郎殿
富田捨次郎殿
株式會社
北海木材商會殿
加福土地株式會社殿
小栗儀造殿
八寶製材株式會社殿
岐阜木材株式會社殿
家崎正次郎殿
遠山喜助殿
松浦和源次殿

金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 金

夏目戸作殿
株式會社
名古屋移拔所殿
大口勝次郎殿
三尾桂殿
岡田長作殿
中央木材株式會社殿
大橋光之助殿
谷田信一殿
長岡安吉殿
合資會社
榎本材木店殿
長瀬忠治殿
楠田道德殿
株式會社川口商店殿
合資會社
村石製材所殿
太田德次郎殿

E-1164

0223

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

全 全 全 全

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

伊藤菊三郎殿
合資會社
太陽製材所殿
淺野物産株式會社
名古屋出張所殿
天龍木材株式會社
名古屋支店殿
秋田木材株式會社
名古屋出張所殿
安田市助殿
前田梅吉殿
株式會社大西組殿
材政合名會社殿
小西與三郎殿
鈴木和太郎殿
北折傳吉殿
花瀬倉藏殿
中央梳木株式會社殿

日露木材株式會社
名古屋出張所殿
堀場安五郎殿
岡戸勝三郎殿
清水榮次郎殿

E-1164

0224

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

午前十時五十分開會

水谷孝三氏（名古屋）開會ノ挨拶

本日、日濠木材協會第一回總會ヲ開催スルニ當リ斯ク多數御參列下サイマシタ事ハ誠ニアリカ度ク存シマス、一言名古屋ニ於テ此レヲ開クニ至リマシタ經過ヲ御報告申シ上ケマス。

昨年九年ノ春ニ於テ濠洲木材業組合聯合會ノ總會アリ、當地カラモ名地、日比兩氏カ出席致シマシタ其ノ際日濠同業者ノ會ヲ催シ度イト話カアリ名古屋テ其ノ第一回ヲセヨト云フカラ兩氏カ歸リテ早々內地ノ同業組合ニ勸誘致シマシタトコロ意外ニ多數ノ參加ヲ得テ今日茲ニ大會ヲ開クニ至リマシタ。

當組合テハ誠ニ手狹テアリ時日カ無カツタノテ此處ニ開タ樣ニナリマシタカ諸席カ狹イ爲ニ後ニ居ラレル人モ同樣致言及ヒ裁決ニ加ハツテ貰ヒ度イト存シマス、本日ハ農林省、林野局、伐木公司、縣、市、各位ノ御光來ヲ得有難度ク御禮申シ上ケマス。

斯ノ如キ會ハ初メハ盛大テ後ニハ尻尾ニオワル事カアルカ本會ハ建全ニ發達セシメテ日濠製善又日濠同業者ノ便益トモナル樣ニ致シ度イト思ヒマス、手許ニアル議案ヲ能ク審議シテ貰キ本會ノ發展ト各位ノ御盡力ヲ御願ヒ致シマス。

次ニ

一同起立「君ケ代」合唱

次ニ

服部小十郎氏（主催地名古屋組合組長）ノ挨拶

本日、日濠木材協會第一回總會ヲ開催スルニアタリ遠クハ濠洲ヨリ或ハ內地各市場カラ多數ノ御面業者各位カ御參集下サレタ事、並ヒニ關係各官廳ノ方々カ公務御多端ナ折柄ニモ拘ラス特ニ御臨席ノ光榮ヲ得マシタ事ハ主催地トシテ誠ニ嬉シク感激ニ堪ヘマセン。

業界ニ於テ最近重大ナル問題ハ帝太廳林政改革ニ因ル帝太材島外移出激減ノ結果港灣都市ニ於ケル製材工場カ著シク其ノ資材ニ惱ンテ居ルト云フ事テアリマス、即チ帝太島ヨリハ從來毎年八百萬石乃至一千萬石ヲ內地ニ移入セラレタルモノナルカ昨年ハ此レカ六百萬石ニ減少シ本年ハ尙其ノ半分ニ減少セラルルト云フ事テア

E-1164

0225

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

リマス、元來內地ノ輸移入材ハ年々約千八百萬石內外ニシテ、シカモ此ノ內九十六ハーセントカ港灣都市工場ノ資材トシテ消化サレ中ニモ都市製材工場ニトリテハ新ル輸移入材ノ大宗ヲナス樺太材ハ包裝材料ノ資材ニ必要缺ク可カラザルモノデアリマス、然ルニ斯ク豐太材ノ激減シツツアル今日當ラス斯クテハ何等カ打開ノ道ヲ講セザレハ都市製材工場ハ其自滅ノ外ナキ狀態ニ至ルヲ恐レ我組合ハ昨年來樺太材出材激減對策ノ連動ヲ與シ又滿洲林業調査會ヲ組織シ滿洲材ノ輸入ニ依リ其ノ資材ヲ潤澤ナラシムル可ク努力シテ來タノデアリマス、御承知ノ如ク滿洲國ハ木材資源ニ富ミ此レカ開發セラレ內地ニ輸入促進サルレハ此ノ樺太材ノ最モ適切ナル代用材トシテ港灣都市製材工場ノ困窮ヲ根絶スル唯一ノ道トモ考ヘラルルノデアリマス、タマタマ日滿木材協會カ昨年九月滿洲ニ於テ組織サレ本日其第一回總會ヲ當地ニ於テ開催スルニ至リマシタ事ハ洵ニ當組合ノ光榮ト存スル次第デアリマス、幸ニ此レカ日滿兩國提携ノ樞トモナリ又一日モ早ク滿洲材ノ輸入ヲ見ン事ヲシツツアル港灣都市製材工場業ノ振

興ニ寄與シヤカテハ內地輸入材ノ大宗ノ地位ヲ占ムル時ノ來ラン事ヲ切望シテ已ミマセン、

茲ニ一言挨拶申述フルト同時ニ當組合トシテハ甚タ會場モ狹隘ニシテ準備萬端不行屆ナ事ヲ御詫申シ上ケマス、

會長（伊藤貫三氏）ノ挨拶

皆樣ノ御許シヲ得テ挨拶ト經過報告ヲスル、本日ハ來賓各位ノ御臨場ト會員多數ノ參加ヲ得總會ヲ開クヲ得タ事ハ光榮ト感謝ニ堪ヘヌ、

本協會ハ昨年滿洲木材同業組合聯合會ヲ哈爾賓テ開クニ當リ名古屋テハ滿洲林業調査會ヲ設ケラレタ事ヲ聽キ會合ニ御參加ヲ得ハト大阪組合ニモ御相談シ九月二十二日ノ大會ニモ御參加ヲ願ヒ日滿ノ同業者團体ヲ作リ滿洲材內地輸入助長ヲ圖ラフト云フノテ十五ノ團体ヲ以テ結成シタ、其後大阪、名古屋、組合テハ擴大作業ニ盡力サレ現在テハ滿洲十一、朝鮮四、內地十五、ノ加盟組合ヲ得タ、

次ニ滿洲林業ノ大要ヲ述ヘタイ、

E-1164

0226

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

蓄積ハ七十億乃至八十億カ至當ナラン即チ日本ノ二倍或ハ三倍、紅松、白松、落葉松ヲ主トシタルモ、ナラ、クルミ、等アリ交通不便ト林地僻陬ナタメ林業ハ幼稚テアル、現在伐採年額カ多イ年テハ七百萬石少イ年テ五百萬石アツタカ事變突發ト共ニ治安亂レ三百萬石ニ足ラストナツタノテ昭和八年ノ如キハ八九十萬石ノ内鮮材輸入ヲ見タ、七十萬乃至百萬石ハ滿洲以外ニ輸出サレテ居ツタ、昨年來治安ヨクナリ、軍事鐵道モ敷設サレ三千キロメートルノ國有鐵道ヲモチ用材四百萬石、枕木三百五十萬石ヲ出シ得ルニ至ル、

本年ハ一昨年ヨリ百萬石以上ノ增伐ヲナシ相當數量ノ輸出ヲ内鮮市場ニナシ得ルト思フ、現在滿洲材ノ内鮮輸出ニハ關稅ノ障壁アリ之レヲ超ヘテ進出至難ナリシカ昨年十一月滿洲材ノ輸出關稅徵廢サレ一ツノ障壁ハ拔ケタカ日本輸入關稅アリ之レカ除去ニハ各位ノ協力ヲ得ルヨリ外ナイ、私ハ大阪、名古屋、東京及關係官廳ヲ訪問スルニ一部ニハ認識ヲ缺キ多量ニ安ク入ルノテハナイカト云フ說ヲ持スル人アリ全部入ツテモ四五百萬石ヨリナイ滿洲國ノ需要ハ三百五、六十萬石ヲ要スル價格モ現在ノ生產費カ高クツクカ

ラ千圓以下ノモノヲ内地ニ入レルコトハ困難故ニ壓迫ヲ與ヘル心配ナシ、昨春諮會ニ際シ日滿木材統制ニ對シテ大臣ノ答辯ヲ得テ居ル處林省山林局長ノ言ハ本年ハ五百萬石内外ノ外材ヲ輸入セネハナラヌトキクカ滿洲材ノ輸入ハ五六十萬ニ足ラヌ、之レハ支障トハナラヌ滿洲材輸入サルルモ内地材壓迫トハナラヌ其點御諒解ヲ願ヒ御助力ヲ乞フ、何レニシテモ滿洲材ノ日本輸入ニ就テハ困難ナル事情カ伏在スル、吾々ハコノ障害除去ニ努力スル故來賓各位ノ御助力ト會員諸君ノ御盡力ヲ乞フ

次ニ來賓ノ祝辭アリ

愛知縣知事ノ祝辭（高瀨林務課長代理）

名古屋市長ノ祝辭（神田助役代讀）

名古屋商工會議所會頭（三浦理事代理）祝辭アリ

塚田書記長ヨリ祝電披露アリ

出席會員代表者中川勝平氏ヨリ

本日茲ニ第一回總會ヲ開カレ慶賀ニ堪ヘヌ、主催地組合ハ滯ナキ準備萬端其ノ勞ヲ謝ス

E-1164

0229

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

滿洲木材同業組合聯合會席上創立ヲ見大阪カラハ二名出席双手ヲ擧ケテ賛成名古屋亦同樣テ創立ヲ見爾來努力シテ多數參加組合ヲ得茲ニ總會ヲ開クハ欣幸ニ堪ヘヌ、本會カイカニ必要意義深キモノカハ言ヲ俟タス木材需要ハ一昨年昨年ハ四千五百萬石ニ減リ、內地材ハ二千八百萬石內外テ殘リハ輸入ニヨルモノ帶太材ハ林政改革ノ結果減シ本年ハ三百萬石內外、數年后ニハ木材トシテ一本モ出ヌコトニナツテイル、之ヲ補フニハ林政變更不可能テアリ此際滿洲材ヲ入レテ補給スルハ當然ラアルコレニハ障害アルモ各位ノ協力ニヨリ關稅引下ケ其他ニ努力シ帶太材ノ補給トシタイ、將來協會ノ健全ナル發達ヲ祈ル、

伊藤勘三氏ヨリ

當協會規約ハ昨年急造ノモノ故不備ナリ暫定的ノ取扱イ故規約ノ變更ヲシタイカ第七條ノ變更第八條ノ條文ニヨラレタイ

地太市氏

主催地名古屋トシソ議長ノ席ヲ辭スヨロシク顧フトテ議長席ニ着ク

一、日滿木材協會規約ノ變更

會議錄署名者二、安東、蜂子井正信、大阪、田平寛兩氏ヲ指名

新舊規約ヲ朗讀シ一括シテ審議スル事ト爲シ、名古屋材木商工同業組合書記長、坂田信一氏新舊規約對照朗讀、

中島信太郎氏（同僚代表）

規約第十條ニ依リ總會費ハ本部所屬組合ノミテ他ノ組合ハ負擔シナクトモ良イカ、

會長（伊藤勘三氏）

會カ設立サレテ早々ノ事テアリ會ニ這入レハ澤山經費カ要リハシナイカト懸念スル事ニモナラウカラ、最ウ少シ會ノ基礎カマトマル迄斯ウシテ漸次世間ニ認メラルル樣ニナツテカラ會費ヲ負擔シテ貰フ樣ニスル、差當リ此レテ御賛成カ願ツテ置キ度イ

水谷孝三氏（名古屋）

規約第三條ニ依レハ副會長ハ所屬組合カ支部トナツテ居ルカ本部

E-1164

0228

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ノミテ支部ハ負擔ノ必要無イカ

議長（宮地太市氏）

無イ様デス

水谷孝三氏（名古屋）

經費ヲ本部組合ノミデ他ノ組合カ全然負擔セヌト云フコトハ一時的ノモノナレハ良イカ永久的ニハ出來ヌト思フカ如何。何分ノ御考慮カ願ハレ度イ

會長（伊藤勘三氏）

私ノ心持カラ申シ上クレハ名古屋ノ申出ノ様ニシテ戴ケレハ誠ニ結構デス。私共ノ目的トスル關税引下運動等ニモ經費ヲ要スル事デアルカラ無駄ニ使ハヌト云フ事デ幾分デモ負擔願ハレハ誠ニ結構ト思フ。

日比駒之助氏（名古屋）

此ノ規約變更ノ件ト役員選擧ハ時間ノ關係上委員附託トシ休憩時間ヲ利用シテ委員ニ依リ慎重ニ協議シテハ如何

議長（宮地太市氏）

規約變更並ニ役員選擧ハ一括シテ委員附託ト決定スル。委員ハ各組合ヨリ各一名宛選出シ本會時間ヲ利用シテ委員會ヲ開ク事トスル

正午　休憩

午后一時四十分再開

議長（宮地太市氏）

午前委員附託トナリタル議件ニ付委員長中川勝平氏（大阪）ヨリ報告スル

中川勝平氏（大阪）

先決問題トシテ會長ノ選定ヲ必要トシ伊藤勘三氏ハ多年滿洲材ヲ日本ニ入レル様ニ努力シテ來タ人デアルカラ同氏ニ御願ヒシタ。同氏ハ日滿木材協會カ設立シタカラニハ是非内地ノ人ニト云フ事デアツタカ滿場一致デ伊藤勘三氏ヲ推薦シ色々ト御願ヒシテ快諾ヲ得タ

次ニ第十條ノ經常費ハ當分ノ内滿洲國側ノ組合デ持ツテ戴ク事ニナツタ此レハ滿洲材ハ日本ニ少シハ輸入サレテ居ルカ其ノ量

E-1164

0229

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ハ未タ微々タルモノテアリシカモ此ノ費用ニ依リ最モ利益ヲ受ケル
ハ滿洲國側ノ同業者テアリ日本側ノ受ク利益ハ餘リ深クナイ故此ノ
費用ヲ內地テ持ツト言フコトニハ少シ異議アル事モアロウト會長
モ伊藤勘三氏ニ御願シ經費ヲ滿洲國側テ持ツテ貰フ事ニシテ會体ノ
會則ヲ決定シタ

第一條ヨリ第四條迄原案通リ

第五條ノ副會長ハ內地側テ二名朝鮮側一名カ適當トシテ其ノ樣ニ
訂正シタ。內地側ハ名古屋・大阪ニ各一名宛置キ朝鮮側ノ一
名ハ後刻申上ケル

更ニ「必要ニ應シ理事會ノ推薦ニ依リ顧問及相談役ヲ置ク」ト
但書ヲ入レタ。

第六條ヨリ第九條迄原案通リ

第十條經常費ハ「當分ノ內」ト挿入スル事ニシタ

第十一條原案通リ

日滿木材協會規約

第一條　本協會ヲ日滿木材協會ト稱ス

第二條　本協會ノ目的ハ日滿間木材統制ノ圓滑ヲ計リ滿洲及內地
輸入ニ關スル對外交渉案件ノ解決及木材事情ノ研究ヲナスモノ
トス

第三條　本協會ノ本部事務所ハ會長所屬ノ組合內ニ置ク

第四條　本會ハ內・鮮・滿ニ於ケル木材組合團体ノ加入ヲ以テ組
織ス

第五條　本協會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長一名　副會長三名　理事若干名

但シ必要ニ應シ理事會ノ推薦ニヨリ顧問及相談役ヲ置ク

第六條　理事ハ加入組合ノ代表者ヲ以テ之ニ充テ理事ノ互選ニ依
リ會長・副會長ヲ定ム

但各役員ノ任期ハ二ケ年トス

第七條　會長ハ會務ヲ統率シ副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アル
時ハ之カ代理ヲナス

理事ハ會務ヲ分擔ス

第八條　會長ノ所屬ノ主催地組合ノ代表者ヲ以テ之ニ充ツ

E-1164

0230

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

會議ノ表決ハ出席理事ノ票決ニヨル、可否同數ナルトキハ議長之ヲ決定ス

第九條　定時總會ハ毎年一回之ヲ開キ必要ニ應シ臨時總會ヲ開ク理事會ハ必要ニ應シテ開催ス

第十條　總會ニ要スル費用ハ主催地ノ負擔トス
經常費ハ當分ノ内本部所屬組合ニ於テ負擔スルモノトス

第十一條　本規約ハ總會ノ決議ニヨリ加除修正スルモノトス

以上

議長（宮地太市氏）
右ノ通リ規約決定ヲ諮リ意義ナク可決ス
役員ハ會長伊藤勘三氏、副會長内地側、名古屋材木商工同業組合代表者、社團法人大阪木材協會代表者、朝鮮側カラハ雄基、清津ノ内カラ一名互選シテ選出スル事ヲ諮リ滿場可決
會長（伊藤勘三氏）挨拶
先程委員會ニ於テ再ヒ私ニ會長ヲ引受ケル樣ニトノ話テアツタカ此レハ會ノ性質上内地ノ人ニ引受ケテ貰フカ良イト思フカ強イテ皆樣カ御ススメスルノテ不肖顧見ス御引受ケシマシタカラ何卒會員皆樣ノ御鞭撻ヲ御願ヒスル

議長
各地組合ノ提出議案ニ就キ御審議ヲ願フ
一、滿洲木材輸入日本關税低減方其ノ筋ニ建議ノ件
名古屋材木商工同業組合提出
提出理由説明（名古屋、日比駒之助氏）
午前中服部、中川兩氏カラお話ノアツタ樣ニ北洋材カ極端ナ林政改革ニ依リ内地ノ移入カ著シク激減シタ昨年ノ如キハ一昨年ノ六割五分シカ移入サレテ居ナイ從ツテ港灣都市製材工場ノタメニハ此レヲ何トカ打開セナクテハナラナイ、就中當地ハ其ノ打撃ヲ受クル事甚大ナルヲ以テ樺太廳ニ對シ島外移出激減ノ緩和運動ヲシタカ丁度當地氏カ渡滿シ其ノ土産話トシテ滿洲材蓄積豊富ナルカ故ニ此レニ着目シテ輸入ヲ計ル樣ニ努力シテハ如何ト云フ事テ滿洲林業調査會ヲ組織シ昨年滿洲ハルビンニ於テ開催ノ滿洲木材業組合聯合會ニ當地ヨリ宮地氏ト私カ出席シテ彼地ノ事情ヲ聽イテ來タ其レニ依ルト滿洲材ハ今急ニ内地ニ輸

E-1164
0231
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

入スル譯ニハ行カヌカ二、三年後ニハ必ス行ク樣ニスルカラ是非助力シテ貰イタイト云フ事デアツタ然シ採算上輸出關稅、輸入關稅、滿鐵ノ運賃高等ノ障害アルカラ此レヲ打開シタナラ勢ヒ輸入サレ易クナリ北洋材ノ代用ニ利益トナリソウダト考ヘ本案ヲ提出シタ

中川森夫氏（名古屋）

從來外材關稅ニ就テハ內地林業家ト相當論爭ノアツタモノデアル今山村救濟ノ八釜シキ折柄斯ル運動ヲ起シテモ內地各市場カラ反對運動カ起リ其ノ主張貫徹ニハ大變困難デハナイカ。

斯ル山村救濟ノ叫ハルル時ニ斯ノ如キ運動ヲ起シ返ツテ相手方ノ反感ヲ買ヒ目的達成ノ障害トナリハセヌカ

先程會長ノ話ニ依ルト滿洲材ノ內地輸入ハ五六十萬石ニ過キヌト云ハレタカ北洋材ハ雜木ヲ合セテ百七十萬石位這入ツテ來ル。今此ノ運動ヲ起シテハ北洋材ノ人氣ヲ押ヘハセヌカ。又關稅徵廢シテモ果シテトレ丈ノ利益アリヤ斯ル事ハ產地ニ利益ヲ與ヘルノミデ內地ノ利益ハ無イ事ニナリハセヌカ。斯クテ關稅引下ケ或ハ徵廢ヲ審議スルヨリモ現地ノ伐出方法、治安、運賃輕減ヲ計ツテハ如何

中村直三郎氏（雄基）

私ハ本案ニ對シテ滿洲ノ眞意ヲ表ス

我國ノ木材輸入ニ關シテ高率關稅ヲカケル事ハ山村ヲ救濟スル爲ナランモ今日テハ等ロ其ノ反對ノ結果トナツテイル。我國ハ人口ノ密度高ク、文化モ發達シテ居ル然ルニ森林地域ハ狹イカ故ニ如何ニシテモ外材ノ輸入ヲ必要トスル。木材ハ如何ニ高價テモ必要ナ數量ハ這入ツテ來ネハナラヌ、若シ關稅政策ニ依リ山村ヲ救濟スルトシテモ却ツテ結果ハ良クナイ。

例ヘハ英國ハ七割ノ食糧品ヲ外國ニ仰ヲイル。高率關稅ニ依リテ木材ノ市價ヲ騰ムレハ山村ニ於テ樹木ヲ亂伐スル事トナル故ニ關稅ハ徵廢スヘキデアル。滿洲ハ日本ノ國力ヲ伸ケテ育成ニ盡シテイル不可分ノ滿洲材ヲ內地ニ入レ商品化シ住民ニ生活ノ安定ヲ與ヘル。ソシテ今一ツハ外材ニカワリ國際貸借ヲヨクスル。是非實現ヲ望シ提案ニ贊意ヲ表スル

會長（伊藤勘三氏）

滿洲材關稅撤廢ノ御議ニ就テ昭和二年朝鮮林業政策確立シ同時ニ六ケ年增伐計劃ヲ立テ自給自足ト見テ特令廢止トナツタ。滿洲カ

E-1164

0232

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ラノ朝鮮入リハ安東カラテ年額六七十萬石テアツテ滿洲ハ日本ノ特殊權益地域トシテソノモノヲ朝鮮輸入課稅ハ不合理トシテ撤廢サレタ。日本內地テハ米材關稅カ昭和四年カラカケラレタ。當時ハ滿洲材モ米材モ「ベイマツ」ト一ツ名稱ノ下ニ一括サレテイタ。運動シテコニ分離サレ一立方米一圓十錢トスル事ニナリ私共ノ陳情ニ中央當局其他カラ滿洲ノ邦人業者ハ迫ハ面白クナイトシテ關東廳カラ同額拂戻スコトニナツタカ其後滿鐵カラ助成金トシテ戻サレル事トナリ實質ニハ免除トナツタ。

昭和六年ロシヤ材ノ課稅提案サレ滿洲材ニ餘波ヲ受ケルコトトナリタル故運動ヲ起シ製材ハ助成金ヲ出ス。丸太ハ支那人ノ作業カ多イカラ原木ノ影響ハ少ナイト云フノテ折衝ノ上製品ノミ助成サレル事ニナツタ。昭和七年ニ輸入品ニ對スル三割五分ノ賦課稅ノ際モ助成金テ免レタ。又南洋材課稅ノ際滿洲產。シヤシ。タモ。シナニ對シテ課セラレル事トナリ製材ニハ助成サレル事トナツテ今日ニ至ル。

昭和四年ノ助成金ハ滿鐵ト關東廳ノ地方費テアツテ昨年打切トナツタ現在ノ日本木材輸入關稅ハ滿洲材標準テハナイ。原木ノ關稅減免ハ事情止ムナク其儘トナツテキタ。

昭和七年ノ海會テ永井拓相ニ懇請シタカ其ノ時期ナウストナツタ

坂上政次郎氏（靑水）

資意ヲ表スル內地港灣ヲ控ヘル都市木材業者ハ昨年米苦シンテイル。今年三百萬石乃至五十萬石ニ減太材カ減スルト山ヲ寶ヲ云々トコロテナク。都市木材業者モ苦シム。昨年米杉丸太一尺七八寸位ノモノヲ伐ツテ行クト花山トナルコトモ考慮ノ要アリ輸減テナク徹廢トシテホシイカ低減ヲ御願スル事ニシヨウ。

滿洲材ノミナラス南洋材ノ關稅モ同時ニ願イタイカ宣願スル

藤長（宮地太市氏）

本案ニ對シテハ多クハ賛成意見ヤアル依ツテ本案ハ之レヲ其筋ニ陳情建議スルコトニ決シテハ如何ト諮リ採決ニ移ラナク決定

中村直三郎氏（雄基）

E-1164

0233

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

各案ヲ一括シテ運動委員ヲ決定サレタイ、

一、滿洲ヨリ輸入丸太ノ連關寸檢ハ取引ノ實際ニ即セル末口寸檢七九掛ニ決定ヲ望ム但シ長尺材ハ此限リニアラス

右ノ趣其ノ筋ニ建議スルコト

社團法人　大阪木材協會提出

中川勝平氏（大阪）提案理由説明

アメリカ材ハフレレトン法テ立方米ニヨル之レハ正シイモノトシテ關稅課稅ノ標準トサレタイト希望シ今日ニ至ル

ロシヤ材ニ對シテハ日本慣行ノ末口七九掛ヲ強要シタ為メ材モ是非共日本ノ商習慣ニヨル樣サレタイ。

現在モミ屬ハ百五圓カカツテイルカフレレトン法ニヨルト百三十圓モカカル事トナルカ末口ナラハ二三割ノ低減トナル。

石田貞治氏（清津）

滿洲材內地輸入地テハ朝鮮ヲ經由スルカ朝鮮テ輸入手續ヲシテヤルカラ保稅地トシテ通過スルヲ希望サレルカ

中川勝平氏（大阪）

之レハ內地トシテハ朝鮮テ拂ハレルカヨイ。少量ノ時代ハソレテヨイカ多量輸入トナルト日本テ稅ヲ拂フコトカヨイト思フ取引ノ敏活上カラモ

坂上政次郎氏（清水）

贊成スル一人テアルカ關稅低減率イテハ御廢運動スル時同時ニトハ思ハヌカ關稅運動ヲナシテカラ本案ヲ諮問スル樣ニシタイ。

中村直三郎氏（雄基）

關稅問題ノ目的貞徹スレハコノ必要モナクナルト思フ關稅方面ニ主力ヲ註キ其後ニ本案建議ヲ望ム

中川勝平氏（大阪）

第一案カ目的貞徹スレハ本案ハ御取下シテモヨイカ萬一通拂セヌ時當面ノ問題トシテ本案カヨイカト思フ此席テ決議シテ置カレレハ結構テアル。

水谷孝三氏（名古屋）

運動ノ時期方法ニ問題カアルノミト思フ主旨ハ贊成ト思フカラ夫レヲ理事者ニ一任シタイ。

E-1164
0234
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

議長（宮地太市氏）

緩急ヨロシクヲ得ヘク同一貨行率員ニ附託スルコトニシテハ如何カト諮リ全會異議ナク決定"

中村直三郎氏（雄基）

朝鮮テ關稅ヲ取ルカ內地テスルカノ清津ノ御意見カアツタカ關稅徵發反對ハ朝鮮總督府ト忠フソレハ營林署材ノ收入源カ根本問題ト思フ。朝鮮テ關稅ヲ出ス樣ニサレタイ"

滿洲國々有鐵道運賃引下ケ其他ヲ滿洲國及滿鐵會社、鐵路總局ニ請願ノ件

理由

滿洲國々有鐵道ノ使命ハ交通機關トシテ軍事上以外ニ於テハ國內經濟狀態ニ鑑ミ主トシテ價廉ナル運賃ヲ以テ特產物ノ輸送ヲナシ產業助長ヲ目的トセル筈ナルモノナリ然ルニ現行木材運賃率ハ國內事情ニ起因スト雖モ滿鐵線、鮮滿線、省線ニ比シ非常ナル高率ニシテ然モ發動機構內ノ施設不充分ニシテ積込

滿洲木材同業組合聯合會　提出

其他ニ要スル費用モ他線ニ比シ數倍ヲ要シ現今木材コストノ大部ハ是等不等ナル費用ニテ占有セラルルハ勿論日滿木材需給統制上影響スル處大ナリトス之カ改善方ニ關シ滿洲國當局及滿鐵會社、鐵路總局ニ對シ要請セン

辻弁五郎氏（清津）提案理由ノ說明

荒鐵之助氏（滿鐵大阪出張所員）

大体ニ於テ滿洲ノ鐵道運賃ハ高率テアル、シカシ滿鐵ハ命ヲ配當スルノミナラス治安上ニモ又日本ノ國防上ニモ貢シテキルノテアル。現在ニ於テハ木材ノ運賃許リテナク他ノモノモ高イカ此レヲ決定スル根本方針ハ滿鐵カ決メコレヲ滿洲事務局ニ依リテ決定スル。

生活ニ必要トセル木材ハ運賃政策上二割五分割引ク、京圖線モ同樣割引スル、又鐵路總局線ノ運賃ハ暫定的ノモノテアル。

會長（伊藤勘三氏）

此ノ問題ハ諸種ノ事情特ニ最近設ケラレタ鐵道ハ軍事ヲ主トシテ居タノテナカナカ運賃低下カ困難テアツタ。私共ハ軍事工作ノ終

E-1164

0235

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

リヲツケ國有鐵道カ正常化スル時少クトモ運賃カ二割乃至三割高イカラ何トカセラレ度イト滿鐵當局ニ要望シタ、其處デ開港地仕向ノモノハ運賃低減シテ外材輸入ヲ防止シ又滿洲材ノ輸出ヲハカツテハト其ノ後山口部長ニモ願ツタ

本案ハ滿洲國側ノ希望テアルカ內地ニテ決議サルレハ實行運動上誠ニ都合カ良イ事ニナル、「鐵ノ運賃モ高イカ、差當リ本會ノ目的達成上必要ナル木材運賃低減ノ實現ヲ期シタイ」

部長（宮地太市氏）

本案ニ對シテモ委員ヲ立テ實行ニウツル事ヲ諮リ可決

一、滿洲材輸出負材拂下ケニ關シ滿洲國政府ニ請願ノ件

理由

現行滿洲國ノ立木拂下ケハ國內事情ニ起因スト雖モ其ノ拂下ケ方法適切ナラス爲ニ和用セラルヘキ然モ內地製函業ノ最モ要求セル二等材ハ殆ト林地ニ放棄セラレツツアリ之カ國家經濟ヨリ見ルモ森林政策ヨリスルモ將タ日滿木材需給統制上ヨリ見ルモ之レ程ノ不合理不利ナルモノナシ、本協會ハ之カ改善ヲ滿洲國當局ニ要請

シ以テ輸出木材ノ增加ト價格ノ低廉ヲ期セントス

（立木拂下ケハ現行ノ出材檢量ニヨル山份及木出ノ徵收ハ其ノ出材ニ伴ノ等級ヲ設ケサル爲自然元木ノミヲ出材スルヲ以テ此際出材ニ等級ヲ設ケ山地ニ放棄シテ顧ミラサル二番木以下ノ劣等材ニハ其ノ山份及木稅ヲ極小額ニ低減シ之レカ出材ヲ促シ將來ニ於テ內鮮同樣ノ豐木調査ニ依ル立木拂下方法ヲ改善シ立木和用價値ヲ高メ生產ノ合理化ヲ期セントス）

中島信太郎氏（圖們）提案理由說明

日比駒之助氏（名古屋）

只今提出サレタ提案ニ對シテハ双手ヲ擧ケテ贊成スル

部長（宮地太市氏）

本案モ日滿間ニ於テハ重大ナル問題ト思フカラ全員ヲ擧ケテ實行シタイト思フカ如何　可決

緊急提議トシテ雄基港ヲ日滿間ニ合理決定セラレタル木材輸出港トシテ滿洲側輸出港トシテ雄基港ノ修築急施行方請願ノ件

E-1164

0236

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

滿洲材伐採地域ニ取テ比較的搬出ニ便ナル地點ヲ木材伐採業者ニ與ヘ奥地不便ナル地點ヲパルプ工業者ニ與ヘタルル樣滿洲國當局ヘ請願ノ件

中村直三郎氏（雄基）二案一任提出理由說明

（昨年九月二十一日哈爾賓ニ於テ決議サレタル請願書ヲ朗讀シ提案理由ヲ說明シ更ニ圖面ニ依ツテ）清津カ滿洲物資ノ呑吐港デアリ羅津ハ木材ノ如キ大量ノモノハ積メナイ雄基ハ木材石炭ノ積出港ニ決定シテイル、雄基カラ一ケ年平均百萬噸ノ木材ヲ輸出シ得ルト見テ昨年ハ京圖松花江支流吉林ヘ集ルモノデ概算二十七八萬噸伐ラレ新京ノ需要ハ三十六萬噸デ大部分此ノ方面カラ伐ラレテヰル。本年ハ昨年ヨリ增伐サレルト考ヘ明年、明後年ハ三十萬噸ハ雄基港カラ積出サレルト思フ

日比駒之助氏（名古屋）

雄基港ヲ以前ニ勞説明ヲ聞キ認識ヲ得タ事ヲ喜フ本案ニ對シテハ贊意ヲ表スルモノデアル。

議長（宮地太市氏）

他ニ御意見モナイ樣デアルカラ本案モ一括シテ委員附託トシ夫々請願ノ手續ヲ取ル事ニ決シテ異議ナキヤヲ諮リ全會異議ナク決定

午后三時五十分　休憩

午后四時十分　續會

議長（宮地太市氏）

役員選擧ノ際朝鮮側副會長未定ナリシカ雄基材木商組合代表者ニ決定シタル旨發表ス

一、次回總會開催地決定ノ件

議長（宮地太市氏）

次回總會開催地ハ朝鮮雄基ト決定シタイト思フカ如何

中村直三郎氏（雄基）

謹ニ結構デアリマスオ引受致シマス。

議長（宮地太市氏）

次回開催地ハ雄基ト決定シマシタ。開催日時ハ本年九月十日前後トシテハ如何ト諮リ八月末或十月初旬ト決定ス

E-1164

0237

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

議長（地太市氏）

各案ニ對スル委員ヲ左ノ如ク指名ス

第一、二案

安東組合代表者、大阪組合代表者、清水港組合代表者、雄基組合代表者、名古屋組合代表者

第三、第四案

安東組合代表者、名古屋組合代表者、大阪組合代表者、雄基組合代表者

第五案

安東組合代表者、名古屋組合代表者、大阪組合代表者、雄基組合代表者、清津組合代表者

議長（地太市氏）

以上ヲ以テ議案全部ノ審議ヲ終了セリ長時間ニ渉リ會員各位ニハ極メテ熱心ニ愼重審議セラレシ事ヲ感謝シマス之レヲ以テ本會ヲ閉シマス

日比嗣之助氏ヨリ閉會ノ挨拶アリタリ

午后四時三十分閉會

昭和十年二月七日

議長　長宮地太市

署名者大阪代表　田平寛

同　安東代表　蔭子井正信

E-1164

0238

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

滿洲國有鐵道木材賃率一覽

品目　不工木材（四級）

運賃（一車扱）

一、京圖線地帯

京圖線、拉法新站間
小姑家新站間

一瓩一粁ニ付　三分

仍子山線及朝開線

二、奉山線地帯

奉吉線、皇姑屯奉天總站間
營口線、北票線、靠虎島線
及大鄭線、大虎山連遼間、
鋪承線、金嶺寺凌源間

別表（遠距離遞減）

三、其他各線

本貨物ハ右普通運賃ノ他ニ奉山線ヲ除ク各線ニハ別ニ次ノ特定運賃ノ定アリ之カ適用ヲ受ケ得ルコトニナツテ居マス。

貨物特定運賃率表（參照）

特定第二號

品名	發驛	著驛	運賃率
木材（四級品ニ限ル）	奉吉線、西安線、平齊線、大鄭線通遼鄭家屯間、齊北線、洮索線、榆樹線、訥河線、濱北線、及北黑線	相互間	普通運賃率ノ二割減

特定第三號

品名	發驛	著驛	運賃率
本材（四級品ニ限ル）	京圖線九站及吉林明月溝間各驛	京圖線驛們	普通運賃率ノ二割五分減
	京圖線九站及吉林敦化間各驛	京圖線吉林及新京東站	

料金（地帯ノ別ナク各線共一率トス）

發著手數料　三角　內譯　積費　一角　御費　一角　驛費　一角

E-1164

0239

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

京圖沿線主要驛木材特定運賃表

二十三市　一車拔運賃

發驛	著驛	一車拔運賃
貢泥河	圖們	◎一一七、九九錢
仝	新京	◎一五五、七六錢
敦化	圖們	◎九八、三二錢
仝	新京	◎一八四、五〇錢
明月溝	新京	◎二一二、六九錢
仝	圖們	◎六一、〇六錢
圖們	雄基	△八二、三四錢
仝	清津	△八四、六四錢

備考

◎印ハ國幣。△印ハ金幣

安東發木材車拔運賃調査（一車二十三噸積ト假定ス）

滿洲國特定運賃

仕向先	距離	運賃	仕向先	距離	運賃
		四			四
		負			負
奉天	二七五、八	七四八六	平壤	二四五	◎九八二一
大連	六四四、一	一四四五五	鎭南浦	三〇五	△◎一一〇九四八
營口	四二四、一	一二一四四	京城	五〇〇	△◎一一一四七五
新京	五八〇、六	一五三六九	開城	四四〇	△◎一一一三二一
開原	三八〇、七	九九〇一	仁川	五五〇	△◎一一一四七〇
公主嶺	五一八、六	一三六七九	釜山	九五〇	△◎一一一八三一
鞍山	三三三、九	九四八七	木浦	九五〇	△◎一一一八三一
撫順	三一三、一	八九〇一	大邱	八二五	△◎一一一七六四

朝鮮向特定運賃

滿鐵線運賃ハ建築用材トシテ貳割五分減運賃

◎印ハ正規運賃ニシテ現行率

△印ハ既往ノ特定率（新義州發ニハ今猶適用サレツツアリ）

E-1164

0240

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

林業勞働從業者調（康德二年一月調）

滿洲國實業部調査

(1)

別	人員
奉天省	三。一〇〇
安東省	一八。五〇〇
吉林省	二〇。五〇〇
間島省	五。四〇〇
濱江省	二六。二〇〇
黑龍江省	一二。八〇〇
興安東分省	六〇〇
〃 南分省	一。九〇〇
〃 北分省	一。五〇〇
計	
此ノ外各省ニ分散ノ製炭勞働者	四。〇〇〇
總計	九四。五〇〇

備考

(1) 本表ニ掲ケタル林業勞働者數ハ用材一萬石ヲ生産スルニ百四十人ヲ要スルモノト見做シ本年度出材見込數量ヲ別表ノ如ク想定シ此ノ想定生産量ト所謂勞働者數トヨリ算出セリ勞働者所要數ハ作業上ノ諸因子ニ依リ異ナルノミナラス生産材種ニ依リテモ異ナルカ計算上之等ノ諸點ハ考慮ニ入レス生産材種ニ依リテモ異ナルカ計算上之

(2) 第一項ニ依ル算出勞働者ノ外流送ノミニ從事ノ勞働者トシテ安東省ニ四千五百人吉林省ニ五百人。間島省ニ二百人。濱江省ニ二百人。黑龍江省ニ二百人ヲ加算ス

(3) 今後木材ノ生産量ハ當然增加スヘキニ付之ニ伴ヒ勞働者ノ需要ヲ增スコトトナル

(4) 勞働者ハ殆ト土着農ニシテ參期間閑期ヲ利用スルモノニシテ一時的ノ入滿勞働者ハ極メテ少ク確實ナル數ハ不明ナルモ全數ノ約二〇%位ノモノト想定セラル尙露人ノ勞働者ハ五千人程度ノモノト推定ス

E-1164

0241

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(3)

省別	材種別	本年度伐採豫定數量
奉天省	用材	一五〇、〇〇〇石
〃	枕木	二〇〇、〇〇〇挺
安東省	用材	一、〇〇〇、〇〇〇石
吉林省	用材	九〇〇、〇〇〇石
〃	枕木	一、五五〇、〇〇〇挺
間島省	用材	三〇〇、〇〇〇石
〃	枕木	二〇〇、〇〇〇挺
黑龍江省	用材	六五〇、〇〇〇石
〃	枕木	六〇〇、〇〇〇挺
〃	薪	一、〇〇〇、〇〇〇石
〃	枕木	三〇〇、〇〇〇石
〃	薪	三〇〇、〇〇〇挺
興安東分省	用材	五〇〇、〇〇〇石
〃	枕木	四〇〇、〇〇〇石
〃	薪	四〇〇、〇〇〇挺

(4)

	材種別	本年度伐採豫定數量
興安北分省	用材	四〇、〇〇〇石
〃	枕木	二〇〇、〇〇〇挺
計	用材	三、三八〇、〇〇〇石
	枕木	三、四五〇、〇〇〇挺
	薪	一、五〇〇、〇〇〇石

(○)用材ニハ二割以内ノ增伐ヲ認ムル規定ニシテ實際ハ昨年ノ如キ地方ニヨリテハ四割ノ增伐ヲナセル處アリ結局本年ノ實伐採量ハ本表ノ一割五分增ト見ルカ至當ナラム。

吉敦沿線本年度出材豫定

一般用材		五〇〇、〇〇〇石
普通枕木		八〇〇、〇〇〇丁
特別枕木		五〇、〇〇〇丁
電柱		二五、〇〇〇本
根枷		五〇、〇〇〇本
坑木		二五〇、〇〇〇本
柚木用材		四〇、〇〇〇石

E-1164

0242

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭和九年度中滿洲ニ於ケル木材需給數量表

滿洲木材同業組合聯合會調査
（昭和十年一月調査）

項目	供給量	輸出量	消費量	十年ヘ繰越	摘要
前年ヨリ繰越	30万石	—	—	—	本表ニハ電柱 坑木 枕木ヲ計上セズ 本表ノ計算ハ原木ヲ基準トス
伐採數量	290万石	—	—	—	
大連ヨリ輸出入	20万石	3万石	—	—	大連ヨリノ輸入ハ内地材七割外材三割ノ見込、輸出ハ主トシテ支那
安東ヨリ 仝上	30万石	23万石	—	—	安東ヨリノ輸入ハ朝鮮材ニシテ南洋材一万石ノ輸出ハ朝鮮ハ二割、支那ハ八割ノ見込ナリ
間島ヨリ 仝	1万石	30万石	—	—	間島ヨリノ輸入ハ朝鮮材ノミ、輸出ハ朝鮮五割、支那三割、日本二割ノ見込
軍用材其他輸入	35万石	—	—	—	軍用材ハ朝鮮宮林署ヨリ関東軍ニ供給セルモノ130万石民間ヨリ供給セルモノ約30万石アリ一般的輸入ハ2万石見込ナリ
計	406万石	56万石	300万石	50万石	十年ヘ繰越材 { 安東方面 20万石 京圖線方面 10万石 其他 20万石

昭和九年ヘ中木材輸出入関係ハ輸入材86万石輸出材56万石ニシテ差引30万石ノ輸入超過ナリ

E-1164

0243

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭和十年度中満洲ニ於ケル木材需給数量豫想表

満洲木材同業組合聯合会調査
（昭和十年一月調査）

項目	供給量	輸出量	消費量	十一年度ニ繰越サルベキモノ	摘要
九年度ヨリ繰越	50万石	—	—	—	本表ニハ電柱、坑木、枕木ヲ計上セズ 本表ノ計算ハ原木ヲ基準トス
伐採数量	370万石	—	—	—	
大連ヨリ輸出入	10万石	3万石	—	—	大連ノ輸入ハ北洋材、米材 内地材ニシテ移出ハ主トシテ支那向ケナリ
安東ヨリ 仝上	15万石	35万石	—	—	安東ノ輸入ハ鮮材ノミニシテ移出ハ三割朝鮮七割支那向ケノ見込ナリ
間島ヨリ 仝上	—	77万石	—	—	間島ノ移出ハ五割日本、三割朝鮮二割支那向ノ見込ナリ
軍用材 其他輸入	30万石	—	—	—	大部分軍用材輸入ニシテ朝鮮総督府営林署ヨリ供給スルモノナリ
計	475万石	115万石	300万石	60万石	次年度ヘ繰越サルベキ各地割合ハ安東方面20万石 京圖線方面15万石 其他25万石ノ見込トス

昭和十年中木材輸出入関係ハ輸入55万石 輸115万石ニシテ差引60万石ノ輸出超過ノ見込ナリ

E-1164

0244

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

滿洲材日本輸入ニ關スル考察

一、日本ニ於ケル消費木材ハ五千萬石（薪炭材ヲ除ク）内外ニシテ國内生産ハ四千四百萬石（内地三、七〇〇萬石、樺太七〇〇萬石）ニシテ不足量五百萬石内外ハ主トシテ米材、南洋材、露西亞材ニヨリテ補給セラレ滿洲材ハ僅僅少ナリ（數年前迄ハ朝鮮ニ年額七、八十萬石ノ輸入アリタリ）

二、樺太材ノ内地向ケ島外輸出量ハ樺太廳ノ林政改革ニ伴ヒ昭和八年度ニ於テ九百萬石ナリシモ昭和九年度ニ於テ五百二十萬石ニ激減シ昭和十年度ニ於テハ三百五十萬石ニ減少スルモノト見ラレ今後年々輸出量ヲ漸減シ昭和十四年度以後ハ島外輸出皆無トナル筈ナリ

三、内地市場ニ於テハ樺太材ノ輸入減ノ爲ニ工場資材ニ不足ヲ告ケ工場ノ休業スルモノ頻出シ特ニ樺太材ヲ資源トセル製函業ニ打撃ヲ與ヘ製函價格ハ非常ニ昂騰シ製函ノ輸出ハ勿論之ニヨリ包裝セラルル一般輸出品貿易ニ惡影響ヲ及シツツアリ

四、滿洲ニ於ケル森林蓄積ハ日本本土ノ約三倍七十五億石ノ蓄積ヲ有シ現今ニ於ケル一ケ年ノ伐採量（薪炭材ヲ含ム）ハ一千五百萬石ニ滿タス

即チ無盡藏トモ稱スヘキ林場ヲ有スルモノナリ諸種ノ關係ニヨリ國外輸出可能量ハ今年度ニ於テハ五十萬石（朝鮮、支那、日本向ケ）内外ナラムモ年々增加シテ年額四、五百萬石ニ達スルハ數年ヲ出テサルヘシ

五、内地木材業者ハ樺太材ノ輸入減少ニ伴フ代用資源ヲ求ムルニ吸々トシテ大市場ニ於テハ滿洲林業ノ調査會ヲ組織シ滿洲材輸入ノ研究ヲナシツツアルモノ二、三ニ止マラス滿洲材輸入助長機關トシテ昨年内地五大市場ヲ中心トセル十五市場ト朝鮮四市場、滿洲十一市場（滿洲ハ全市場）ノ三十市場ヲ以テ日滿木材協會ノ結成ハ必然ノ結果ニシテ將來滿洲材ノ日本輸入ノ助長ト統制ノ民間機關トナスハ機宜ニ適セルモノト思考ス

六、樺太材ノ移入減ニ伴フ代用資源ヲ滿洲ニ求メサル限リ米國材ノ輸入ヲ激增スヘキハ必然ノコトナリ

七、滿洲材ノ輸入ハ日滿經濟ブロツクノ結成或ハ日滿木材統制ノ上ニ於テ見ルモ當然ノ事ニシテ之カ輸入ハ決シテ内地林業ヲ壓迫スルモノニ非ラス其ノ輸入量ニ於テ品質ニ於テ價格ニ於テ樺太材ノ代用トシテ輸入

E-1164
0245
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

スルモノニシテ寧ロ歡迎サルヘキモノナリ米穀材ノ輸入ニ拮抗スルノ日ハ四、五年先キノ事ト思考サル

八、滿洲材ヲ輸入シ之ニ關稅ノ特別ナル取扱ヲナスモ帝國ノ財政收入ニ何等影響スルモノニ非ス現行滿洲材ニ對スル原木ノ日本木材輸入關稅ハ一立方米三圓六四〇ニテ材價ノ二割ニ相當ス

九、政府ハ滿鐵ヲ通シ滿洲材ノ製材ニ對シテハ昭和四年以后產業助成金ノ名ニ於テ課稅額ノ大部ヲ業者ニ補助シツツアリ此ノ方法ヲ擴大シ單ニ製材トセル限定ヲ木材ニ改メ一般木材ニ對シ補助ノ方法ヲ講スル事ハ滿洲材輸入助長ノ上ニ適切ナリト思考ス

一〇、樺太材ノ代用資源ヲ滿洲材ニ求メサル限リ米穀材ノ輸入ヲ促進スルハ勿論內地森林濫伐ヲ誘致シ數年ナラスシテ木材飢饉時代ヲ現出スヘシ

一一、滿洲材ヲ輸入スルト米穀材ヲ輸入スルトノ國家經濟上ノ可否ハ論議スルノ要ナカラム

一二、滿洲國ノ產業ヲ助長スルコトハ單ニ滿洲國民ノ保護援助スルモノナリト斷スル者アルハ時代錯誤モ甚シキ謬見ニシテ且ツ滿洲材ノ輸入助長ヲ同一視スルハ滿洲ノ林業カ八割以上日本ノ資本ニ依リ經營サレ林業

勞働者ノ殆萬カ朝鮮人ナルト將來ノ滿洲林業ノ統制ハ日本ノ財團ト滿洲國政府ノ合辦ニヨリ確立セラレントスルノ事實ヲ認識セサルノ甚シキモノナリ

一三、滿洲國育成ノ上ニ於テ現下滿洲國地方農山村民ノ疲弊困憊セル窮狀ヲ林業ノ開發ニヨリ救濟スルハ刻下急務ニシテ之ニ伴フ滿洲材日本輸入ノ促進ハ日本木材工場其他ニ好影響ヲ與フヘキモノニシテ一石二鳥ノ賢策タリト信ス

一四、滿洲國ハ無限ノ資源ヲ有スル富有ナル國家ニ非ス且ツ滿洲國ニ於ケル輸入商品ノ七割五分ハ日本商品ニシテ然モ輸入關稅ハ凡ヘテ消費者タル滿洲國民ノ負擔トナリ物價昂騰シ一般ノ國民ハ生活ノ恐慌ヲ感シツツアリ日本政府カ滿洲國內資源ノ開發ニ資スル事ハ一面日滿貿易ノ擴興ヲ策スルモノトモ稱スヘク此ノ意味ニ於テ滿洲特產ニシテ日本產業ニ影響ヲ與ヘス然モ日本ノ生產不足ニシテ國外輸入ヲ仰ク物資ニ對シテハ政府ハ努メテ輸入關稅ノ如キハ特例ヲ設ケ之カ負擔ヲ免除スルノ要アリ滿洲材ノ如キハ此ノ資格ニ於テモ適合セルモノナリ

E-1164

0246

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

右敢テ諏者諸賢ノ御比判ト御高示ヲ乞フモノナリ

昭和十年三月初

於東京諏

木材同業組合聯合會理事長
滿洲木材協會々長

伊藤勘三

E-1164

0247

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

木材統計（昭和十年二月末）

年度	内地材生産量（單位石）			用材合計	摘要
	用材	新炭材	合計		
昭和五年	三九四、〇五六、四	二二、三六六、〇六四	四二五、四二〇、四	一五、二一四、六六八	内地杉材相場
全　六年	三八四、一四九、六	二二、二二二、〇二二	四〇六、三七一、八	一四、一八五、四二九	最高四、〇〇〇
全　七年	三八五、三八二、一八	二二、四九四、二三	四〇七、八七六、四二一	一四、〇〇二、一四〇	最低三、六〇〇
					七年　八年　九年
					最高　三、三〇〇　三、三〇〇　八、一〇〇
					最低　三、六〇〇　三、三〇〇　八、一〇〇

北洋材輸移入量（單位石）

年度	輸移入量	摘要		
昭和五年	八、五五七、八六六	敦賀物中丸太東京本船渡シ相場		
昭和六年	九、二七六、〇六一	最高	三、三〇〇	最低
昭和七年	八、九八七、一九七		四、三〇〇	三、六〇〇
昭和八年	九、〇三五、五三六		六、一〇〇	六、三〇〇
昭和九年	一、五二〇、九八三		八、一〇〇	六、三〇〇

樺太材カ主ナルモノテ少量ノ雑材ヲ含ム

南洋材輸入量（單位石）

年度	輸入量	摘要		
昭和五年	三三、〇九一	ヒリツピン赤ラワン		
全　六年	三九六、〇一四	東京本船渡シ相場		
全　七年	三九五、九一四	最高	七、六〇〇	最低
全　八年	七六、七七二		九、〇〇〇	七、七五〇
全　九年	八五一、一〇九		九、五〇〇	八、三〇〇

米材輸入量（單位石）

年度	輸入量	摘要	
昭和七年	三、九八五、〇三三	最高	最低
全　八年	四、〇九三、六二二	九、三〇〇	五、六〇〇
全　九年	三、九七三、三六一	九、三〇〇	六、三〇〇
		一、〇〇〇	八、三〇〇

滿洲材ノ日本輸入ハ極少量ナリ

E-1164

0248

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一課　長

第三課

通商三課

昭和十年二月十八日

廣田外務大臣閣下

伊藤　勧

記

分類　E 3.1.2.3-1-2

通商三課

件名　第12回太平洋問題調査会

滿洲材ニ對シ日本木材輸入關稅免除方請願ノ件

題暦　春寒料峭ノ候貴官益々御健勝ニ被爲渉候段爲邦家大慶至極ニ奉存候

陳者內地ニ於ケル木材需給ノ現況ハ樺太材島外移出ノ激減ニ伴ヒ著シク需給ノ調節ヲ失シ殊ニ樺太材ヲ資源トセル沿岸地方製材工場ハ萎微沈滯シ輸出製函事業ノ如キハ休止スルノ止ムナキニ立至リ業者一同ノ憂苦ニ堪ヘザル處ニ有之候日本ニ於ケル外材ノ輸入ハ米材、南洋材、露西亞材ヲ主トシ年額五六百萬石ニ達シ居リ候ヘ共業者ハ尙且ツ樺太材ノ代用資源ヲ求ムルニ渡々タルノ有樣ニ有之候

滿洲ニ於ケル森林蓄積ハ日本內地ノ蓄積ニ比シ無慮三倍トモ稱スベキ七十五億ノ立木蓄積ヲ有シ其ノ國內消費量タルヤ僅カニ年額立木一千五百萬石ニ滿タザルノ現況ニシテ滿洲國建國以來路般ノ施政モ略其ノ緒ニ就キ皇道ノ治安ニ對スル努力ハ克ク林地ノ濫伐ヲ防止シ鐵道交通ノ普及ト相俟ツテ其ノ出材量モ增大シ國內需要ハ勿論本年ノ如キハ相當數量ノ國外輸出ノ加能性ヲ有スルニ至リ之ガ將來性ニ就キテハ日滿經濟關係ト日滿木材統制上深甚ノ考慮ヲ要スベキモノト存候

本協會ハ此ノ情勢ニ適應シ滿洲材日本輸入助長ノ樣願トシテ內鮮滿三十組合聯盟ヲ以テ結成セルモノニ有之最ニ滿洲國政府ニ對シテハ木材輸出關稅ノ撤廢其他ヲ要望セルニ全國政府ハ英斷ヲ以テ國內主要產業タル林業ノ助長ノ主旨ヲ以テ昨年十一月二十一日木材輸出關稅ヲ無稅ニ改正シ滿洲材國外輸出ノ門戶ヲ開放シ國有鐵道ノ輸出木材運賃ノ引下ゲト國有林木ノ拂下處分方法ノ改善ニ關シテ當局ニ於テモ深甚ナル考慮ヲ促シ居ルノ情況ニ有之候只業者ノ最モ遺憾トスル處ハ滿洲國ニ

E-1164

0249

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

於ケル諸施設ハ國防其他ノ關係ニ依リ急激ナル變化ト進展ヲナセルガ爲ニ經濟上不合理ナル點多ク案外其ノ生產費高ミ現行鐵道運賃ノ如キハ他鐵道運賃率ニ比シ二倍乃至三倍ノ高率ニシテ滿洲材ノ輸入ニハ採算上不利不便多ク殊ニ內地市場ニ於テハ主トシテ露西亞材ノダンピングト拮抗シ米材ノ一部ト角逐スルモノニシテ業者ノ犧牲的努力ハ勿論ナルモ一面帝國政府ノ援助ヲ熱望スルモノニ有之候

新興滿洲國ハ吾ガ帝國ノ庇護ノ下ニ發祥セルモノニシテ之ガ國礎ノ安否ハ隣接地帶ノ朝野統治ニ及ボスベキ影響ハ勿論日本帝國ノ興廢ニ重大ナル關係ヲ有スベキハ茲ニ贅言ヲ要セザル處ニシテ朝野擧ゲテ之ガ對策ニ專念セルノ事實ハ吾人ノ最モ欣快トスル處ニ有之候

此ノ意義ニ於テ滿洲材日本輸入ノ助長ハ滿洲國產業ノ大宗タル林業ノ開發ニ資スルハ勿論在滿邦人數萬ノ從業者ノ發展ヲ促シ之ガ振興ノ如何ハ滿洲國內經濟ノ上ニ非常ナル貢獻ヲナシ延イテ日滿木材統制ニ與フル好影響モ微少ナラズト信ズルモノニ有之候今ヤ滿洲ニ於ケル王道樂土ノ建設ハ市部ニ於テ其ノ方面山村民ノ疲弊漸ク多キヲ感ムト雖モ建國以來物價ハ昂騰シ地加ヘントスルノ情勢ハ最モ考慮スベキモノニシテ之等民衆ノ救濟ノ意味ニ於テモ亦經濟及治安工作上林業ノ振興ハ滿洲國統治ノ上ニ於テ最モ肝要ナリト思惟スルモノニ有之候

日本國內ニ於ケル山林業者ノ窮乏ハ同情ニ値スルモノ有之ト雖モ之ガ原因ハ單ナル外材ノ輸入ニ起因セルモノニ非ラズシテ昭和四年以來外材ニ對スル輸入關稅ノ高率引上ゲハ果シテ之等林業者ヲ救出シ得タリヤ又現今ノ如キ物價ノ騰貴ノ增大ハ國家百年ノ林政ニ考慮ノ要ナキヤ內地材ノ主要材ハ輸入稅以來約六割ノ値上リヲ見タルモ樺太材ノ二十五割ノ値上リニ過ギズ又輸移入材ノ相場ニ比シ常ニ內地主要材價ガ幾割カノ下位ニ位カルノ事實ハ外材輸入ノ壓迫ニ非ザルヲ立證スルモノニ有之候之ヲ滿洲材ニ就キテ考フルニ本年ニ於ケル滿洲材ノ輸入豫想ハ外材輸入ノ一割ノ量ニモ達セズ價格ニ於テハ杉材ニ比シ二、三割高ニシテ自然之ガ用途ハ特種ノ方面ニ使用消化サルベキモノニシテ事ロ將來ニ於ケル滿洲材ノ輸入量增加ハ米露材ノ川越ニ浸入シ之ガ輸入防止ニ資スベキモノニシテ國家經濟上ト日滿親善ノ上ニ於テ最モ歡迎スベキモノト思惟セラレ申候

E-1164

0250

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

國事多端國家財政ノ困難ナル時ニ於テ財政收入ニ影響スベキ輸入關稅ノ免除ヲ請願スルガ如キハ國民トシテノ本意ニハ無之候へ共僅少ナル國家ノ恩惠ガ滿洲林業ノ進展ヲ促シ日滿木材關係業者ノ多數ヲ救濟シ日滿兩國ノ産業ノ助長ト統制ニ資スルノ大ナル點ヲ特ニ御賢慮ヲ煩シ新興滿洲國樞助ノ大精神ヲ以テ滿洲材日本輸入木材關稅免除方御詮議相願度右本月七日名古屋ニ於ケル本協會總會滿場一致ノ決議ヲ以テ別紙議事錄相添へ及請願候

追テ滿洲ニ於ケル主要ナル林業經營ハ政府合辦又ハ日本財閥ノ出資ニシテ其拂投資額モ數千萬圓ニ達シ五十有余ノ製材工場ノ如キモ殆ンド邦人ノ經營ニ係ルモノニ有之候

尙現行關洲材ノ輸入關稅ハ歐洲材ニ對スル特別ノ保護ヲ與ヘ居ラルトノ事實ヨリ見波及ニシテ現ニ製材ニ對スル西亞材ヲ目的トシテ加稅サレタル結果ノルモ其ノ精神ハ顯ナルモノト信ズルモノニ有之候

E-1164

0251

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

日滿木材協會規約

第一條　本協會ヲ日滿木材協會ト稱ス

第二條　本協會ノ目的ハ日滿間木材統制ノ圖畫ヲ計リ滿洲材內地輸入ニ關スル對外交涉案件ノ解決及木材事情ノ研究ヲナスモノトス

第三條　本協會ノ本部事務所ハ會長所屬ノ組合內ニ置キ支部ハ副會長所屬ノ組合內ニ置ク

第四條　本會ハ內、鮮、滿ニ於ケル木材組合團體ノ加入ヲ以テ組織ス

第五條　本協會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長一名　副會長三名　理事若干名

但シ必要ニ應ジ理事會ノ推薦ニヨリ顧問及相談役ヲ置ク

第六條　理事ハ加入組合ノ代表者ヲ以テ之ニ充テ理事ノ互選ニ依リ會長副會長ヲ定ム

但各役員ノ任期ハ二ケ年トス

第七條　會長ハ會務ヲ統卒シ副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アル時ハ之カ代理ヲナス理事ハ會務ヲ分擔ス

第八條　會議ノ議長ハ主催地組合ノ代表者ヲ以テ之ニ充ツ

會議ノ表決ハ出席理事ノ表決ニヨル、可否同數ナルトキハ議長之ヲ決定ス

第九條　定時總會ハ毎年一回之ヲ開キ必要ニ應ジ臨時會ヲ開ク

理事會ハ必要ニ應シテ開催ス

第十條　總會ニ要スル費用ハ主催地ノ負擔トス

經常費ハ當分ノ內本部所屬組合ニ於テ負擔スルモノトス

第十一條　本規約ハ總會ノ決議ニヨリ加除修正スルモノトス

日滿木材協會役員及本支部所在地		
會長	社團法人安東材木商組合理事長	伊藤勘三
	滿洲木材同業組合聯合會理事長	
副會長	社團法人大阪木材協會會長	中川勝武
	大阪材木商同業組合組長	
仝	名古屋材木商工同業組合組長	服部小十郎
仝	雄基材木商組合長	中村直三郎

E-1164

0252

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

理事　東京材木問屋同業組合組長　井田幸太郎

全　清水港材木商同業組合組長　中村藤太郎

◎以上關税諸國委員トナル

外ニ理事二十四名（前記以外加入組合代表者ヲ之ニ充ツ）

本部　滿洲安東縣大和橋通安東商工會議所内

支部　大阪市大正區千島町大阪木材協會内

〃　名古屋市南區八幡町長町名古屋材木商工同業組合内

〃　朝鮮咸鏡北道雄基港商工會内

以上

E-1164

0253

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

MF3.1.2.J242

昭和十年二月十八日

廣田外務大臣閣下

日滿木材協會
會長　伊藤勘三

滿洲材ニ對シ日本材輸入關稅免除方請願ノ件

謹啓　春寒料峭ノ候貴官益々御健勝ニ被爲渉候段爲邦家大慶至極ニ奉存候

陳者內地ニ於ケル木材需給ノ現況ハ樺太材島外移出ノ激減ニ伴ヒ著シク需給ノ調節ヲ失シ殊ニ樺太材工場ハ業務沈滯シ輸出製函事業ノ如キハ休止スルノ止ムナキニ立至リ業者一同ノ憂苦ニ堪ヘザル處ニ有之候日本ニ於ケル外材ノ輸入ハ米材、南洋材、露西亞材ヲ主トシ年額五六百萬石ニ達シ居リ候ヘ共業者ハ尙且ツ樺太材ノ代用資源ヲ求ムルニ汲々タルノ有樣ニ有之候

滿洲ニ於ケル森林蓄積ハ日本內地ノ蓄積ニ比シ無慮三倍トモ稱スベキ七十五億ノ立木蓄積ヲ有シ其ノ國內消費量タルヤ僅カニ年額立木一千五百萬石ニ滿タザルノ現況ニシテ滿洲國建國以來時般ノ施政モ略其ノ緒ニ就キ皇軍ノ治安ニ關スル努力ハ克ク林地ノ匪害ヲ防止シ鐵道交通ノ普及ト相俟ツテ其ノ出材量モ增大シ國內需要ハ勿論本年ノ如キハ相當計畫ノ國外輸出ノ加能性ヲ有スルニ至リ之ガ將來性ニ就キテハ日滿經濟關係ト日滿木材統制上深甚ノ考慮ヲ要スベキモノト存候

本協會ハ此ノ情勢ニ適應シ滿洲材日本輸入助長ノ機關トシテ內鮮滿三十組合團體ヲ以テ結成セルモノニ有之候ニ滿洲國政府ニ對シテハ木材輸出關稅ノ撤廢其他ヲ要望セルニ全國政府ハ英斷ヲ以テ國內主要產業タル林業ノ助長ノ主旨ヲ以テ昨年十一月二十一日木材輸出關稅ヲ無稅ニ改正シ滿洲材國外輸出ノ門戶ヲ開放シ國有鐵道ノ輸出木材運賃ノ引下ゲト國有林木ノ拂下處分方法ノ改善ニ關シテ當局ニ於テモ深甚ナル考慮ヲ促シ居ルノ情況ニ有之候只業者ノ最モ遺憾トスル處ハ滿洲國ニ

E-1164
0254
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

於ケル諸施設ハ國防其他ノ關係ニ依リ急激ナル變化ト進展ヲナセルガ爲ニ經濟上不合理ナル點多ク案外其ノ生産費高ミ現行鐵道運賃ノ如キハ他鐵道運賃率ニ比シ二倍乃至三倍ノ高率ニシテ滿洲材ノ輸入ニハ採算上不利ト不便多ク殊ニ內地市場ニ於テハ主トシテ露西亞材ノダンピングト拮抗シ米材ノ一部ト角逐スルモノニシテ業者ノ犧牲的努力ハ勿論ナルモ一面帝國政府ノ援助ヲ懇望スルモノニ有之候

新興滿洲國ハ吾ガ帝國ノ庇護ノ下ニ發祥セルモノニシテ之ガ國防ノ安否ハ隣接地帶ノ朝鮮統治ニ及ボスベキ影響ハ勿論日本帝國ノ興廢ニ重大ナル關係ヲ有スベキハ茲ニ贅言ヲ要セザル處ニシテ朝野擧ゲテ之ガ對策ニ專念セルノ事實ハ吾人ノ最モ欣快トスル處ニ有之候

此ノ意義ニ於テ滿洲材日本輸入ノ助長ハ滿洲國產業ノ大宗タル林業ノ開發ニ資スルハ勿論在滿邦人幾萬ノ從業者ノ發展ヲ促シ之ガ振興ノ如何ハ滿洲國內經濟ノ上ニ非常ナル貢獻ヲナシ延イテ日滿木材統制ニ與フル好影響モ尠少ナラズト信ズルモノニ有之候今ヤ滿洲ニ於ケル王道樂土ノ建設ハ市部ニ於テ其ノ姿ヲ認ムト雖モ建國以來物價ハ昂騰シ地方農山村民ノ疲弊漸ク多キヲ加ヘントスルノ情勢ハ最モ考慮スベキモノニシテ之等民衆ノ救濟ノ意味ニ於テモ亦經濟及治安工作上林業ノ振興ハ滿洲國統治ノ上ニ於テ最モ肝要ナリト思推スルモノニ有之候

日本國內ニ於ケル山林業者ノ窮乏ハ同情ニ値スルモノ有之ト雖モ之ガ原因ハ單ナル外材ノ輸入ニ起因セルモノニ非ラズシテ昭和四年以來外材ニ對スル輸入關稅ノ高率引上ゲハ果シテ之等林業者ヲ救出シ得タリヤ又現今ノ如キ幼樹ノ伐採量ノ增大ハ國家百年ノ林政ニ考慮ノ要ナキヤ內地材ノ主要材ハ輸入稅增稅以來約六割ノ値上リヲ見タルモ特太材ノ二十五割ノ値上リニ必適セズ又輸移入材ノ相場ニ比シ常ニ內地主要材價ガ幾割カノ下位ニ置カルルノ事實ハ外材輸入ノ壓迫ニ非ラザルヲ立證スルモノニ有之候之ヲ滿洲材ニ就キテ考フルニ本年ニ於ケル滿洲材ノ輸入移想ハ外材輸入ノ一割ノ量ニモ達セズ價格ニ於テハ杉材ニ比シ二、三割高ニシテ自然之ガ用途ハ特種ノ方面ニ使用消化サルベキモノニシテ專ロ將來ニ於ケル滿洲材ノ輸入量增加ハ米露材ノ用途ニ浸入シ之ガ輸入防止ニ資スベキモノニシテ國家經濟上ト日滿親善ノ上ニ最モ歡迎スベキモノト思量セラレ申候

E-1164
0255
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

國事多端國家財政ノ困難ナル時ニ於テ財政收入ニ影響スベキ輸入關稅ノ免除ヲ請願スルガ如キハ國民トシテノ本意ニハ無之候へ共僅少ナル國家ノ恩惠ガ滿洲林業ノ進展ヲ促シ日滿木材關係業者ノ多數ヲ救濟シ日滿兩國ノ產業ノ助長ト統制ニ資スルノ大ナル點ヲ特ニ御賢慮ヲ煩シ新興滿洲國機助ノ大精神ヲ以テ滿洲材日本輸入木材關稅免除方御詮議相願度右本月七日名古屋ニ於ケル本協會總會滿場一致ノ決議ヲ以テ別紙議事錄相添へ及請願候

追テ滿洲ニ於ケル主要ナル林業經營ハ政府合辦又ハ日本財團ノ出資ニシテ其等投資額モ數千萬圓ニ達シ五十有余ノ製材工場ノ組織モ殆ンド邦人ノ經營ニ係ルモノニ有之候

尙現行滿洲材ノ輸入關稅ハ露西亞材ヲ目的トシテ加稅サレタル結果ノ波及ニシテ現ニ製材ニ對スル特別ノ保護ヲ與ヘ居ラルトノ事實ヨリ見ルモ其ノ精神ハ諒ナルモノト信ズルモノニ有之候

E-1164

0256

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

日滿木材協會規約

第一條　本協會ヲ日滿木材協會ト稱ス

第二條　本協會ノ目的ハ日滿間木材統制ノ圓滑ヲ計リ滿洲材內地輸入ニ關スル對外交渉案件ノ解決及木材事情ノ研究ヲナスモノトス

第三條　本協會ノ本部事務所ハ會長所屬ノ組合內ニ置キ支部ハ副會長所屬ノ組合內ニ置ク

第四條　本會ハ內、鮮、滿ニ於ケル木材組合團體ノ加入ヲ以テ組織ス

第五條　本協會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長一名　副會長三名　理事若干名

但シ必要ニ應ジ理事會ノ推薦ニヨリ顧問及相談役ヲ置ク

第六條　理事ハ加入組合ノ代表者ヲ以テ之ニ充テ理事ノ互選ニ依リ會長副會長ヲ定ム

但各役員ノ任期ハ二ケ年トス

第七條　會長ハ會務ヲ統率シ副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アル時ハ之カ代理ヲナス理事ハ會務ヲ分擔ス

第八條　會議ノ議長ハ主催地組合ノ代表者ヲ以テ之ニ充ツ

會議ノ表決ハ出席理事ノ選決ニヨル、可否同數ナルトキハ議長之ヲ決定ス

第九條　定時總會ハ毎年一回之ヲ開キ必要ニ應ジ臨時會ヲ開ク

理事會ハ必要ニ應シテ開催ス

第十條　總會ニ要スル費用ハ主催地ノ負擔トス

經常費ハ當分ノ內本部所屬組合ニ於テ負擔スルモノトス

第十一條　本規約ハ總會ノ決議ニヨリ加除修正スルモノトス

	日滿木材協會役員及本支部所在地
會長	社團法人安東材木商組合理事長　伊藤勘三
	滿洲木材同業組合聯合會理事長
副會長	社團法人大阪木材協會會長　中川勝武
	大阪材木商同業組合組長
仝	名古屋材木商工同業組合組長　服部小十郎
仝	雄基材木商組合長　中村直三郎

E-1164

0259

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

理事　東京材木問屋同業組合組長　井田幸太郎

仝　清水港材木商同業組合組長　中村藤太郎

○以上關税諮詢委員トナル

外ニ理事二十四名（前記以外加入組合代表者ヲ之ニ充ツ）

本部　滿洲安東縣大和橋通安東商工會議所内

支部　大阪市大正區千鳥町大阪木材協會内

〃　名古屋市南區八熊町長町名古屋材木商工同業組合内

〃　朝鮮咸鏡北道雄基港商工會内

以上

E-1164

0258

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

寫

農林大臣閣下
外務大臣閣下
商工大臣閣下
對滿事務局總裁閣下

昭和十年二月十八日

日滿木材協會
會長 伊藤勘三

大藏大臣 高橋是清閣下

滿洲材ニ對シ日本木材輸入關稅免除方請願ノ件

拜啓 春寒料峭ノ候貴官愈々御健勝ニ被爲渉候段爲邦家大慶至極ニ奉存候

陳者內地ニ於ケル木材需給ノ現況ハ軍太材島外輸出ノ激減ニ伴ヒ甚シク需給ノ調節ヲ失シ殊ニ樺太材ヲ資源トセル沿岸地方製材工場ハ奏廟沈衰シ輸出製函事業ノ如キハ休止スルノ止ムナキニ立至リ業者一同ノ

憂苦ニ堪ヘサル處ニ有之候日本ニ於ケル外材ノ輸入ハ米材・南洋材・露西亞材ヲ主トシ年額五六百萬石ニ達シ居リ候得共業者ハ尙且ツ軍太材ノ代用資源ヲ求ムルニ汲々タルノ有樣ニ有之候

滿洲ニ於ケル森林蓄積ハ日本內地ノ蓄積ニ比シ無慮三倍トモ稱スヘキ七十五億ノ立木蓄積ヲ有シ其ノ國內消費量タルヤ僅カニ年額立木一千五百萬石ニ滿タサルノ現況ニシテ滿洲國建國以來諸般ノ施政モ略其ノ緒ニ就キ皇軍ノ治安ニ對スル努力ハ克ク林地ノ所害ヲ防止シ鐵道交通ノ普及ト相俟ツテ其ノ出材量モ增大シ國內需要ハ勿論本年ノ如キハ相當數量ノ國外輸出ノ可能性ヲ有スルニ至リ之カ將來性ニ就キテハ日滿經濟關係ト日滿木材統制上深甚ノ考慮ヲ要スヘキモノト存候

本協會ハ此ノ情勢ニ適應シ滿洲材日本輸入助長ノ機關トシテ內鮮滿三十組合團體ヲ以テ結成セルモノニ有之候ニ滿洲國政府ニ對シテハ木材輸出關稅ノ徹廢其他ヲ要望セルニ仝國政府ハ英斷ヲ以テ國內主要產業タル林業ノ助長ノ主旨ヲ以テ昨年十一月二十一日木材輸出關稅ヲ無稅ニ改正シ滿洲材國外輸出ノ門戶ヲ開放シ國有鐵道ノ輸出木材運賃ノ引

E-1164
0259
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

下ケト國有林木ノ拂下處分方法ノ改善ニ關シテ當局ニ於テモ深重ナル考慮ヲ促シ居ルノ情況ニ有之候只業者ノ最モ遺憾トスル處ハ滿洲國ニ於ケル諸施設ハ國防其他ノ關係ニ依リ急激ナル變化ト進展ヲナセルカ爲ニ經濟上不合理ナル點多ク爲外其ノ生産費嵩ミ現行鐵道運賃ノ如キハ他鐵道運賃率ニ比シ二倍乃至三倍ノ高率ニシテ滿洲材ノ輸入ニハ採算上不利不便多ク殊ニ內地市場ニ於テハ主トシテ露西亞材ノダンピングト拮抗シ米材ノ一部ト角逐スルモノニシテ業者ノ犧牲的努力ハ勿論ナルモ一面帝國政府ノ援助ヲ熱望スルモノニ有之候

新興滿洲國ハ吾カ帝國ノ庇護ノ下ニ發祥セルモノニシテ之カ國礎ノ安否ハ隣接地帶ノ朝野統治ニ及ホスヘキ影響ハ勿論日本帝國ノ興廢ニ重大ナル關係ヲ有スヘキハ茲ニ贅言ヲ要セサル處ニシテ朝野擧ケテ之カ對策ニ專念セルノ事實ハ吾人ノ最モ欣快トスル處ニ有之候

此ノ意義ニ於テ滿洲材日本輸入ノ助長ハ滿洲國産業ノ大宗タル林業ノ開發ニ資スルハ勿論在滿邦人數萬ノ從業者ノ發展ヲ促シ之カ振興ノ如何ハ滿洲國內經濟ノ上ニ非常ナル貢獻ヲナシ延イテ日滿木材統制ニ與フル好影響モ尠少ナラスト信スルモノニ有之候今ヤ滿洲ニ於ケル王道

樂土ノ建設ハ市部ニ於テ其ノ姿ヲ認ムト雖モ建國以來物價ハ昂騰シ地方農山村民ノ窮乏漸ク多キヲ加ヘントスルノ情勢ハ最モ考慮スヘキモノニシテ之等民衆ノ救濟ノ意味ニ於テモ亦經濟及治安工作上林業ノ振興ハ滿洲國統治ノ上ニ於テモ最モ肝要ナリト思推スルモノニ有之候

日本國內ニ於ケル山林業者ノ窮乏ハ同情ニ値スルモノ有之ト雖モ之カ原因ハ單ナル外材ノ輸入ニ起因セルモノニ非スシテ昭和四年以來外材ニ對スル輸入關稅ノ高率引上ケハ果シテ之レ等林業者ヲ救出シ得タリヤ又現今ノ如キ稚樹ノ伐採量ノ增大ハ國家百年ノ林政ニ考慮ノ要ナキヤ內地材ノ主要材ハ輸入稅增稅以來約六割ノ値上リヲ見タルモ僅太材ノ二十五割ノ値上リニ必過セス又輸移入材ノ相場ニ比シ常ニ內地主要材價カ幾割カノ下位ニ價カルルノ事實ハ外材輸入ノ壓迫ニ非ラサルヲ立證スルモノニ有之候之ヲ滿洲材ニ就キテ考フルニ本年ニ於ケル滿洲材ノ輸入豫想ハ外材輸入ノ一割ノ量ニモ達セス價格ニ於テハ杉材ニ比シ二、三割高ニシテ自然之カ用途ハ特殊ノ方面ニ使用消化サルヘキモノニシテ擧ロ將來ニ於ケル滿洲材ノ輸入量增加ハ米露材ノ用途ニ浸入シ之カ輸入防止ニ資スヘキモノニシテ國家經濟上ト日滿親善ノ上ニ於

E-1164

0260

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

テ殺モ弧迚スヘキモノト想量セラレ申候

國費多端國家財政ノ困難ナルノ時ニ際テ財政收入ニ影響スヘキ輸入關稅ノ免除ヲ請願スルカ如キハ國民トシテノ本意ニハ無之候得共傳少ナル國家ノ恩恵カ滿洲林業ノ進展ヲ促シ日滿木材關係業者ノ多數ヲ救濟シ日滿兩國ノ產業ノ助長ト統制ニ資スルノ大ナル點ヲ特ニ御賢慮ヲ相煩シ新興滿洲國援助ノ大精神ヲ以テ滿州材日本輸入木材關稅免除方御詮議相願度右本月七日名古屋ニ於ケル本協會總會滿場一致ノ決議ヲ以テ及請願候

追而滿洲ニ於ケル主要ナル林業經營ハ政府合辨又ハ日本財閥ノ出資ニシテ其ノ投資額モ數千萬圓ニ達シ五十有餘ノ製材工場ノ如キモ殆ト邦人ノ經營ニ係ルモノニ有之候

現行滿洲材ノ輸入關稅ハ露西亞及ニシテ現ニ製材ニ對スル特別ノ保護ヲ與ヘ居ラルルノ事實ヨリ見ルモ其ノ精神ハ察カナルモノト相信シ申候

E-1164

0261

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

日滿木材協會規約

第一條　本協會ヲ日滿木材協會ト稱ス

第二條　本協會ノ目的ハ日滿間木材統制ノ圓滑ヲ計リ滿洲材內地輸入ニ關スル對外交涉案件ノ解決及木材事情ノ研究ヲナスモノトス

第三條　本協會ノ本部事務所ハ會長所屬ノ組合內ニ置キ支部ハ副會長所屬ノ組合內ニ置ク

第四條　本會ハ內、鮮、滿ニ於ケル木材組合團体ノ加入ヲ以テ組織ス

第五條　本協會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長一名　副會長三名　理事若干名

但シ必要ニ應シ理事會ノ推薦ニヨリ顧問及相談役ヲ置ク

第六條　理事ハ加入組合ノ代表者ヲ以テ之ニ充テ理事ノ互選ニ依リ會長、副會長ヲ定ム

但各役員ノ任期ハ二ケ年トス

第七條　會長ハ會務ヲ統卒シ副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アル時ハ之カ代理ヲナス、理事ハ會務ヲ分擔ス

第八條　會議ノ議長ハ主催地組合ノ代表者ヲ以テ之ニ充ツ

會議ノ表決ハ出席理事ノ票決ニヨル、可否同數ナルトキハ議長之ヲ決定ス

第九條　定時總會ハ毎年一回之ヲ開キ必要ニ應シテ臨時總會ヲ開ク

理事會ハ必要ニ應シテ開催ス

第十條　總會ニ要スル費用ハ主催地ノ負擔トス

經常費ハ當分ノ內本部所屬組合ニ於テ負擔スルモノトス

第十一條　本規約ハ總會ノ決議ニヨリ加除修正スルモノトス

E-1164

0262

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

日滿木材協會役員及本支部所在地

會長　社團法人安東材木商組合聯合會理事長　伊藤勘三
滿洲木材同業組合理事長

副會長　社團法人大阪木材協會會長　中川勝平
大阪材木商同業組合組長

仝　名古屋材木商工同業組合組長　服部小十郎

仝　雄基材木商組合長　中村直三郎

理事　東京材木問屋同業組合組長　井田幸太郎

仝　清水港材木商同業組合組長　中村藤太郎

◎以上關稅請願委員トナル

外ニ理事二十四名（前記以外加入組合代表者ヲ之ニ充ツ）

本部　滿洲安東縣大和橋通安東商工會議所內

支部　大阪市大正區千島町大阪木材協會內

〃　名古屋市南區八熊町長町名古屋材木商工同業組合內

〃　朝鮮咸鏡北道雄基港商工會內

以上

E-1164

0263

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

通商局
第一課

東亞局
第三課

分類E3.1.2.J2-2-1

通商局

公機密第五九一號

昭和十年四月十二日

在滿洲國
特命全權大使　南　次郎

外務大臣　廣田弘毅殿

滿洲材ニ對スル日本木材輸入關稅免除方請願書其他送付ノ件

本件ニ關シ今般滿洲木材同業組合聯合會理事長ヨリ別紙寫ノ通請願ノ次第アリタルニ付可然御取計相成度

在滿日本帝國大使館

通商三課

附記

E-1164

0264

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

安木發第一一六號

昭和十年三月廿三日

滿洲木材同業組合聯合會理事長
日滿木材協會々長
伊藤勘三

駐滿全權大使
南次郎閣下

滿洲材ニ對スル日本木材輸入關稅免除方
請願書其他御送附ノ件

拜啓　愈愈御清榮之段大慶至極ト奉存候
陳者首題ニ關スル請願書並ニ於名古屋開催ノ第一回日滿木材協會
定期總會議事錄其他別途御送附申上候間御高覽ノ上是非共目的達
成可致樣御賢慮相賜度此段御報告旁旁奉願候

早々

在滿日本帝國大使館

E-1164

0265

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp